

令和2年度第1回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和2年9月12日(土) 10:00~12:00
- 開催場所 栗東市立図書館 小会議室
- 出席者 國松完二、吉川なおみ、竹橋貴美子、井上明美、井上和子、宗本和子、山元貴弘、鈴木由希子、伊丹桜子
- 事務局 教育部長、図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 1人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章朗読

会長挨拶

新委員紹介

2、協議事項

- ①令和元年度事業報告・評価について
- ②令和2年度事業進捗状況について
- ③その他

3、閉会

1、開会

(会長あいさつ)

昨年度11月に委員の改選があつてから、もうすぐ一年になります。前回の開催からは年度も変わり、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、図書館の利用が大きく変わった半年だったのでと思います。今日は図書館評価が議題になっていますが、図書館の基本的運営方針は策定から3年が経ち、ちょうど半分が過ぎたところです。市民の目から見た評価につながるよう、積極的な発言をお願いできればと思います。よろしく申し上げます。

2、協議事項

①令和元年度事業報告・評価について

(事務局) 栗東市立図書館活動報告に沿って説明

併せて、運営方針に定める目標値一覧(案)について説明

(委員) 利用者数、貸出冊数が減っており、難しい状況を認識した。学校は、司書が配置

されることで、子どもたちに良い刺激になったし、図書館の整理・選書の面でも良かった。そういったことが有効に働いていないかなと考えている。

(会長) 新規登録者数が、昨年度までは1,900人程度だったのに、急に大きく落ち込んだ。実利用者数も減ってはいるが、新規登録者数ほど大きい落ち込みではない。市への転入者は年4,000人くらいで、新生児を含めると新しく市民になる人が5,000人くらいいる。図書館が遠いなど、いろいろな理由があると思うが、新しい市民を図書館に呼び込むことが上手くできていないのではないか。

(事務局) 図書館が知られていないことは大きな課題だと考えている。今まで、学校が団体で来館することにより、子どもを通して家庭でも図書館を知っていただくという流れがあったが、年々、学校からの来館が少なくなっている。乳幼児健診時に図書館のPRを行うことなどを検討していたが、新型コロナウイルスの影響で足踏み状態となっている。

(会長) 自治体によっては、転入手続き時のお知らせの中に図書館の案内を入れているという話も聞くが、そういったことは難しいか。

(事務局) 現状は、窓口を利用案内・図書館カレンダーを設置のみしている状態。

(事務局) 転入時はPRのチャンスではあるのだが、いろいろなものをお渡ししすぎて、一度には目を通しきれないような状態になっている。乳幼児健診など、義務性の高いイベントを通じてPRすることを考えていきたい。

(委員) 貸出冊数の項の課題として書いてある「魅力ある書棚、展示方法」について。新しいジャンルの本を読みたいと思った時に、本が選べないことがある。司書の薦める本があれば、読みたい。例えば、司書が「今年の自分のベスト3」を展示するような企画があれば、ぜひ読みたいと思うので、そのような展示をしてみてもどうか。

(事務局) 現在は、「シショイチ」というコーナーで、毎月2冊の本の紹介を行っている。10月からは図書館報の発行を予定しているが、司書からの本の紹介について、若干の拡充も考えている。今いただいたご意見を含め、司書からの発信について検討していきたい。

(委員) 司書の顔が見え、この人はこういう趣味でこういう本を選んだ、というようなことがわかると、親近感が湧く。そんな風なアットホームな紹介があると嬉しい。

(委員) 普段、新聞や雑誌で気になった本をメモすることが多い。図書館で、新聞書評をコピーして掲示するのはどうか。自宅では購読している新聞だけの情報になるが、各紙の書評を見られれば、こういう本を読みたい、こういう作家も読みたいと思うきっかけになるのではないかと思う。

(事務局) 実際的な問題として、著作権上の制限があり、コピーを掲示するのは難しい。本を選ぶ手がかりを増やす工夫はしていきたい。

(委員) 高校生が自分で読んだ本について書いた展示があり、高校生はこんな本に興味を

持っているんだと思って見た。この本を読んだらこんなに面白かった、というように、本を探す手掛かりになるものがあれば面白いと思う。

(事務局) 現在、おはなしボランティアさんが絵本にPOPをつけてくださったものを展示しており、非常によく利用されている。ご意見をいただいた通り、本に一言コメントがつくだけで効果は大きい。図書館は、多くの方に本との出会いを作っていかなければいけない場だと思っているので、あらゆる角度から出会いの方法を検討していきたい。

(委員) 図書館にはマンガがない。栗東出身の森田さんという方もいるのに、その方のマンガもない。自分はマンガは読まないが、図書館にあったら読んでみようかなと思うだろうし、活字には関心がないけれどマンガなら見たいという人もいると思う。そういった多くの人の興味をひくものを図書館で扱うのもいいのではないかと思う。

(事務局) マンガも貴重な資料だとは考えているが、資料費1,600万円をどのように使っていくかを考えていくと、収集に着手できていないというのが現状。時代的なことを考えれば、検討していく必要はあると認識している。森田さんについては、栗東出身の著名人でもあり、郷土資料のコーナーの中に森田さんのコーナーを作り、マンガ以外の著書も含めて置く予定。

(委員) 森田さんは栗東のPR大使。青年会議所でも学校との写真撮影事業で、写真の版に森田さんからお言葉をいただいている。そういったことがあると、図書館にも行きやすくなるのかなと思う。

また、目標値について。先日、滋賀大学と市の環境課の協働事業の、水質・生物調査に参加した。子どもたちが水質や藻、魚などについて学んだのだが、資料がないため、保護者はスマホなどで検索しながら調査しており、そこに図書館が参加すれば、非常にやりやすくなるだろうと感じた。他部署と一緒に事業を行うことで、利用者数が増えることもあるのではないかと思う。

(会長) マンガの扱いについては、他の図書館でも議論が分かれている。現在、活字の本は年に8~9万点、コミックは年に1万タイトルの新刊が出る。栗東では、年に1万冊程度購入するが、活字の本だけでも出版点数の8分の1くらいに絞り込まれている。その意味では、活字とコミックの両方を追うのは、なかなか難しい。

(委員) マンガの話だが、県内の他図書館に所蔵があるマンガの取り寄せを断られたことがある。所蔵が難しくても、近隣の図書館から取り寄せられればありがたい。

(事務局) 取り寄せのご要望はいただいているが、各館が少ない資料費の中で選んでいる本なので、自館で取り扱っているもの以外は頼まないという紳士協定のような形ができている。扱っていないものを取り寄せるとするのは難しい状況。

(委員) どこの団体でも、事業に人が集まらないというようなことには悩んでいる。子どもでもスマホを持つなど、この何年かで、生活環境が非常に変化した。ここに掲

げられている目標値を達成できたら理想だが、なかなか難しいのではないか。だからどうしたらいいという提案はなかなかできないのだが、地道なことをやっていくしかないと思う。

来館しない人にどうするかというのは一番だと思うが、これをどうにかするのは非常に大変。

比較的取組みやすいのは来館者に本を多く借りてもらふことかと思う。例えば、1年間で何冊借りました、というようなことがあると、もっと借りようと思うかもしれない。おはなし会では、参加するたびにシールを分けていて、子どもたちはそれが参加のモチベーションになっているようなところがある。図書館貯金のような、何を借りてそれが何円分にあたるというような記録を導入した事例もある。司書の選んだテーマ別3冊パックの取組みは、実際手にとって面白かったし、来館者に少し借りる本を増やしてもらふことにつながるかなと感じる。いずれにしても、24時間の中のどれだけの本に割いてもらうかということになるので、とても難しいことかとは思ふ。

(会長) おはなし会などを行っている中で、子どもたちの読書に対する変化などは出ているか。

(委員) 小学校におはなし会に行って子どもたちに本を紹介していると、借りに行きたいという声があがったり、本の話で盛り上がったりと、手ごたえはある。直接紹介すると、食いつきも目の輝きも違うし、おはなしを聞けない子もいない。子どもたちに直接手渡すというのは、効果があるのではないかと思う。

(事務局) 昨年度から治田西学区の子ども食堂に行かせていただいているが、子どもたちが本に飛びついてくるのを実感する。それをきっかけに何人かは図書館に来てくれたが、本人も家族も忙しい中、生活のリズムの中に図書館が組み込まれていないと感じる。

(委員) 主任児童委員をしており、各学区の委員と意見交流があるが、親から一冊も本を読んでもらったことがないという子どもがいる。読み聞かせをする家庭としない家庭、その格差が非常に大きい。その差が、子どもが成長するにつれてどうなっていくか、大変心配している。保護者に何とか、本は大事ですよと伝えたい。インターネットに読み聞かせの動画があるとも聞く。本当は良くないのかもしれないが、少しでもおはなしを面白いと思うきっかけになればと思ふもする。

(委員) 学校では、本を読む機会は以前に比べると増えている。本校では、読書月間に毎朝本を読む時間をもっている。ビブリオバトルの取組みも行っている。国語の授業でも、学校で習っているおはなしと並行して、同じテーマや作者の本を読む並行読書をするという学習の流れがある。

1年生には図書館からおはなし会に来てくれるが、3年生に図書館について学

ぶ機会があると、もう少し子どもと図書館が近づくかと思う。図書館への来校が減ったというのは、交通手段と費用の問題が大きい。3年生は博物館に見学に行くので、そこと併せて図書館に行ける流れがあると良いのだが、お弁当日と休館日が当たっていると行きにくい。休館日にも対応してもらえるとありがたいし、全員が図書館に行く機会を設けることができると思う。小学生になると、子どもが親に働きかけて図書館と一緒に足を運ぶ、その効果は大きいと思うので、子どもたちにそんな機会があるといいなと思う。

(会長) 評価表だが、自己評価欄だけでなく、外部評価欄もある方がいいのではないか。

(事務局) 検討させていただく。

(会長) 5年の計画の中間年。新型コロナウイルスの影響もあり、先ほど意見に出たような生活環境の変化もある。来年・再来年もこの運営方針に基づいてそのまま評価するのか、見直すのかを含め、案を作ってもらえたらと思う。

②令和2年度事業進捗状況について

(事務局) 令和2年度事業進捗状況について説明

委員からの質問・意見無し

(会長) 上期に事業ができなかった分、下期に事業が多い。新型コロナウイルスの感染状況によっては中止等も出てくるかもしれないが、頑張っただけでやっただけでいいと思う。西館のリニューアルでは、改修途中のものもあるので、計画的に進めてほしい。

③その他

(事務局) その他配布資料についての説明

(会長) レファレンスまとめについて、結果はどこかで見られるのか。

(事務局) 図書館でとっている記録が、結果を記載する形式になっていない。検討する。

(会長) 図書館システムの使い勝手はどうか。

(事務局) 職員も利用者も使用には慣れてきたと思う。最近、若干不具合が発生しているので、業者と連絡をとりながら支障なく運用されるよう努めていきたい。

(会長) 追加配布資料について。日本図書館協会から、図書館のコロナ対策のガイドラインが公表されており、来館者の記録をとるという項目があった。読書の秘密等との関連で話題になったので、情報提供する。概ね1割程度の図書館で入館記録をとっているようだが、それ以外の館では、ソーシャルディスタンスの確保等の対策となっている。

資料の後半は、県内19自治体の統計の比較。栗東の場合、決して利用が極端に減ったということはないが、以前は住民一人あたりの貸出が全国トップクラス

だった時期があり、その時期を知っている利用者からすると、本が少なくなったという思いを持っているのではないかと思う。以前のような図書費に戻るのは難しい状況だが、一方で、工夫にも限界はあるかと思う。協議会でも応援をしていきたい。

3、閉会

(教育部長あいさつ) 大変有意義なご意見、アイデア、具体的なお提案をいただき、ありがとうございます。生涯学習のまちづくりの進み具合は図書館を見ればわかるとおっしゃっている方もいるので、財政的に厳しいところではあるが、皆さんに親しまれる図書館を作っていきたい。

次回

令和3年2月6日(土) 午前10時～12時 本館小会議室